

日本臨床検査医学会 理事 選挙候補者の立候補届

日本臨床検査医学会
選挙管理委員会 委員長 殿

平成 25 年 10 月 25 日

標記について、下記のとおり必要事項を記載し、日本臨床検査医学会 **理事**
選挙立候補者として、お届け申し上げます。

理事立候補者 氏名 前川 真人  (フリガナ マエカワ マサト)

本学会における主な活動、役職歴

1983 年に臨床検査医学会（臨床病理学会）に入会
1994 年から評議員
2010 年から理事（標準化担当）
2012 年、常務理事（会計、標準化担当）
2013 年、副理事長（標準化担当理事）

委員会活動

編集委員会、精度管理委員会、倫理委員会、ガイドライン作成委員会、広報委員会、
遺伝子委員会、国際委員会、会則改定委員会、選挙管理委員会、学術集会委員会
などの委員、
精度管理委員会の委員長、遺伝子委員会の副委員長などを歴任

学会主催

第 21 回日本臨床検査医学会東海北陸支部例会 2002 年 8 月
第 45 回日本臨床検査医学会東海北陸支部総会 2006 年 3 月
第 32 回日本臨床検査医学会東海北陸支部例会 2013 年 7 月

関連学会

日本臨床化学会（評議員、国際交流委員長）、日本遺伝子診療学会（副理事長）、
日本電気泳動学会（会長）
国際アイソザイム会議大会長（ICCC 京都サテライト会議）（2002）
第 57 回日本電気泳動学会総会長（2006）
第 48 回日本臨床化学会年次学術集会長（2008）
第 7 回チェリーブLOSSAM シンポジウム大会長（2010）
第 20 回日本遺伝子診療学会大会長（2013）

※理事候補者としての所信表明 A4 用紙 1 枚以内にお書き下さい。

事務局使用 受付日時 2 5 10 2 9 月 日 受付担当 _____ 受付番号 /

所信表明（理事）

浜松医科大学医学部・臨床検査医学
前川真人

私は、大学を卒業し、検査部に入局した数少ない臨床検査専門医の一人です。菅野剛史先生の下で、特に臨床化学領域の研修をし、1988年12月にはノースキャロライナのリー博士の下でLDH遺伝子解析研究を行いました。帰国後はその遺伝子解析を発展させ、1994年からは国立がんセンター中央病院の臨床検査部に籍を置き、癌研究、腫瘍マーカーについて勉強しました。また、新病院の立ち上げにも立ち会いました。

2000年に浜松医大の臨床検査医学講座に助教授として戻り、2001年1月からは教授として、そして現在は検査部長（2001年から）、遺伝子診療部長（2005年から）、感染対策室長（2008年から）を兼務しております。特に検体検査管理加算の責任者として検査部長に専ら従事してきました。対外的には、臨床検査医学会を始めとした学会活動の他、2001年から日本医師会臨床検査精度管理調査の検討委員会の委員（2008年から副委員長）も務めてきました。

異常値の出るメカニズムとして、臨床医は病態について考えるわけですが、病態だけで説明がつかうわけではありません。臨床検査を担当している者としては、分析以外の因子による検査値の異常を忘れてはなりません。生理的変動はもとより、検体採取による検査値への影響は決して小さいものではなく、診療の方針決定に大きな捻れをひきおこすこともあります。臨床検査の診療における貢献度は70%くらいと言われますが、それ故に適切に臨床検査を使うことが非常に大切です。医師だけでなく、他の医療従事者も啓発していく必要があります。検体を提出すれば自動的に結果がでると考えるのは非常に危険です。患者の状態を正確に表す検査値を出すことは、臨床検査のプロとしての務めだと考えます。測定だけでなく、分析前、分析後の精度管理を意識する必要があります。このような考えで臨床検査にどっぷりとつかり、臨床検査医学の診療の場は検査部であると認識して検査部の運営をしてきました。

臨床検査医学会は、職域をまたぎ、広範囲にまたがる臨床検査全てを網羅する、臨床検査領域の集大成というべき学会であります。また、臨床検査という冠を抱いた学会であるだけでなく、対外的にも日本医学会の基本領域の学会として、臨床検査関係者全員でもりたてていくべき学会であると考えております。私は臨床化学会にも入っておりますが、「臨床化学会は検査を作る学会、臨床検査医学会は検査を活用する学会」とよく言われます。どちらも大切です。ただ、活用する学会であるならば、産官学に加えて臨床検査を行っている現場の力がよりいっそう必要となると考えます。臨床検査の現場の力、これを活かして臨床検査医学をさらにいっそう発展させることができると考えます。多くの有志を会員として、学会を活性化させていきたいと思っております。


2年間、常務理事として会計と副理事長を担当させていただきました。学会の運営は大変であることを実感してきました。この経験と、長らく臨床検査に携わってきた諸々を活かし、継続して臨床検査の発展のため、そして臨床検査医学会の発展のため、役に立てるよう頑張る所存です。

日本臨床検査医学会 理事 選挙への立候補届

日本臨床検査医学会
選挙管理委員会 委員長 殿

2013年 10 月 28 日

標記について、下記のとおり必要事項を記載し、日本臨床検査医学会 **理事**
選挙立候補者としてお届け申し上げます。

理事立候補者 氏名 山田 俊幸  (フリガナ ヤマダ トシユキ)

本学会における主な活動、役職歴

昭和 59 年	入会
平成 1 年	専門医
平成 4 年	評議員
平成 8 年	第 2 回学術奨励賞
平成 12 年度～15 年度	編集委員会委員
平成 14 年度～21 年度	検査項目コード委員会委員
平成 20 年度～23 年度	医療安全委員会委員
平成 22 年度～	教育委員会委員(平成 24 年度～委員長)
平成 23 年度～	臨床検査管理医セミナー講師
平成 24 年度～	コンプライアンス委員会委員長

※理事候補者としての所信表明 A4 用紙 1 枚以内にお書き下さい。

事務局使用 受付日時

2 月 10 日 3 0

受付担当

受付番号 2

所信表明

自治医科大学臨床検査部の山田でございます。前回は力及ばず、ご支援いただいた方々には大変申し訳ありませんでした。再度チャレンジさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

現在、教育のほうを担当させていただき、2017年に本格導入される「新専門医制度」に向けた教育研修の土台作りに追われています。まずはこの仕事を全うさせていただくことが学会への貢献と考えております。

ところで、この分野は伝統的に「個性の集合」であり、良くも悪くも統一性のないところが特徴でした。今回の新専門医制の施行では、第3者にも明確な実際上の統一性が求められています。窮屈な感もありますが、個性を維持しながら、ある程度は共通項に収束していく方向は避けられないように思います。そこで、専門医制の次に私が貢献したい取り組みの一つは、「学部教育（医師・検査技師）の標準化」です。大学講座が元気のない今だからこそ、教育で貢献することを明確に打ち出し、標準的なものを後世に残す必要があります。

他に持論である「学会誌の英文誌化」など、取り組みたいことはいくつかありますが、現実的な最重要課題は人材の確保（特に若手）でしょう。専門医会などと連携して、例えば現在の「若手の会」を継続し、さらに発展的な若手発掘、育成の手立てを講じなければなりません。

以上のことに微力を注ぐ所存です。どうぞご協力のほど重ねてお願い申し上げます。

日本臨床検査医学会 理事 選挙への立候補届

日本臨床検査医学会
選挙管理委員会 委員長 殿

2013年10月31日

標記について、下記のとおり必要事項を記載し、日本臨床検査医学会 **理事**
選挙立候補者としてお届けいたします。

理事立候補者 氏名 小柴 賢洋  (フリガナ コシバ マサヒロ)

本学会における主な活動、役職歴

(1) 主な活動

- 2005 「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」地域評価委員会協力者
(学会の依頼により厚生労働省に登録)
- 2007 第8回特別例会(第51回近畿支部例会)プログラム委員
- 2008 第51回近畿支部総会会長
- 2011 第58回学術集会プログラム委員
- 2012～ 日本臨床検査振興協議会広報委員会 委員(日本臨床検査医学会より)
- 2012 第59回学術集会プログラム委員
- 2013 第60回学術集会プログラム委員
- 2016 第63回学術集会会長(予定)

(2) 主な役職

- 評議員・近畿支部幹事
- 2007 学会活性化委員会(委員)
- 2008～2011 専門医・管理医委員会(委員長)
- 2010～ 臨床検査専門医・管理医制度 研修施設・指導者認定委員会(委員)
- 2012～ 広報委員会(委員長)
- 2012～ 専門医・管理医委員会(委員)
- 2012～ 倫理委員会(委員)
- 2012～ ガイドライン作成委員会(委員)
- 2012～ 審査委員会(委員)
- 2012～ 臨床検査専門医・管理医制度 臨床検査専門医・管理医審議会(委員)
- 2012～ 臨床検査専門医・管理医制度 試験審議会(委員：実行委員長)

※ 理事立候補者としての所信表明を A4 用紙 1 枚以内にお書き下さい。

所信表明

小柴 賢洋

正しい臨床検査なしには診断も治療も成り立ちません。しかし「臨床検査」という言葉すら知らない患者さんもしばしばです。医師や看護師でも、機器の電源を入れ検体をセットしスイッチを押せば正しい検査結果が得られると勘違いしている方が少なくありません。こうした点を改善するには、学会員はもちろんのこと臨床検査医学会に未所属の**医師（特に若手）、さらには学生に、まず検査医学に興味を持って頂く**必要性を強く感じます。臨床検査医学が病因・病態の解析から遺伝的な体質の評価など非常に幅広い領域を含み、しかも臨床と直結しているのを肌で感じてもらうことが、臨床検査の意味や問題点の正しい理解、さらには臨床検査医学会のみならず**臨床検査医学全体の活性化**につながると考えます。こうした医療従事者が増えれば患者への啓蒙活動にもつながります。母体血による胎児ダウン症診断などは臨床検査を正しく理解していただくための非常に良いきっかけになりますので、学会としても公開セミナーなどにより**外部に向かって広報**することが大切でしょう。

私は主に（１）臨床検査の広報活動、（２）専門医・管理医体制の充実による学会活性化の点から学会運営に関わって参りました。広報委員会ならびに学会を代表して臨床検査振興協議会広報委員会に加えていただき臨床検査を一般の方に説明するDVDが完成したところです。「臨床検査のガイドライン」も昨年末に発刊され、こうしたツールを利用して広報活動を積極化することが望まれます。また、専門医・管理医審議会や研修施設・指導者認定委員会の一員としてだけでなく、2012～13年度の専門医試験実行委員長として専門医認定の最前線で活動させていただき、例題・模範解答の作成など専門医増加に向けての現実的な取り組みの必要性を感じています。

本日の総会にて2016年度の学術集会長を拝命いたしました。技師会主催の国際学会との同時開催の予定であり、臨床検査医学を内外にアピールする絶好のチャンスです。こうした活動により学会の活性化のため尽力したい所存です。

日本臨床検査医学会 理事 選挙への立候補届

日本臨床検査医学会
選挙管理委員会 委員長 殿

2013年 11月 4日

標記について、下記のとおり必要事項を記載し、日本臨床検査医学会 理事
選挙立候補者としてお届けいたします。

理事立候補者 氏名 諏訪部 章 (フリガナ スワベ アキラ)

本学会における主な活動、役職歴

- ・入 会：平成3年～現在
- ・評議員：平成15年～現在
- ・理 事：平成20年～23年（教育担当）
- ・東北支部幹事：平成13年～現在
- ・ガイドライン作成委員会：副委員長（平成20年～23年、JSLM2009の発刊を担当）
委員長（平成24年・25年、JSLM2012の発刊を担当）
- ・チーム医療WG：委員長（平成24年・25年）
- ・東日本大震災対策委員会：顧問（平成23年・24年）
- ・包括医療検討委員会：委員（平成16年～19年）
- ・国際委員会：委員（平成20年～23年）
- ・渉外委員会：委員（平成22年～現在）
- ・専門医試験委員：委員（平成24年・25年）
- ・臨床検査専門医認定試験：実行委員（平成19年～平成23年、生理担当）
- ・研修施設・指導者認定委員会：委員（平成20～23年）
- ・主な主催学会（臨床検査関連）：
 - 日本臨床検査医学会・東北支部総会：平成15年、平成20年、平成26年（予定）
 - 日本臨床検査医学会・東北支部例会：平成13年、平成19年
 - 日本臨床検査自動化学会・春季セミナー：平成17年4月
 - 日本臨床検査専門医会・春季大会：平成23年6月
 - 日本臨床化学会・年次集会：平成24年9月
- ・関連学会：
 - 日本臨床化学会（理事、評議員）、日本臨床検査自動化学会（評議員）、
 - 日本臨床検査専門医会（全国幹事）、日本臨床検査同学院（理事、編集委員）
 - 日本検査血液学会（東北支部理事）、日本呼吸器学会（代議員）
 - 日本肺サーファクタント・界面医学会（評議員、常任理事、事務局長）

※ 理事立候補者としての所信表明をA4用紙1枚以内にお書き下さい。

事務局使用 受付日時

25月 11. 05

受付担当

受付番号 44

所信表明

理事候補者： 諏訪部 章 (すわべ あきら)
所属・役職： 岩手医科大学医学部・臨床検査医学講座・教授
岩手医科大学附属病院中央臨床検査部・部長
岩手医科大学附属病院輸血・細胞治療部・部長
岩手医科大学附属病院・臨床検査科・部長
岩手医科大学人間ドック室・室長

略 歴： 昭和 59 年 3 月：山形大学医学部卒業
昭和 63 年 3 月：同大学院卒業（第一内科、呼吸器病学、医学博士）
昭和 63 年 4 月：米国 National Jewish Center (Denver) 留学
平成 2 年 11 月：山形大学医学部第一内科・医員
平成 3 年 12 月：同・臨床検査医学講座・助手
平成 6 年 10 月：同・講 師
平成 10 年 2 月：同・助教授
平成 13 年 5 月：岩手医科大学医学部臨床検査医学講座・教授

主な資格： 臨床検査専門医（日本臨床検査医学会、認定番号 449 号、平成 11 年～）
臨床検査監理医（日本臨床検査医学会、認定番号 28 号、平成 18 年～）
認定化学者（日本臨床化学会）、呼吸器専門・指導医（日本呼吸器学会）
認定内科医・総合内科専門医（日本内科学会）
ICD（日本環境感染症学会）、人間ドック認定医（日本人間ドック学会）

1) 医療従事者・国民に対する臨床検査のアピールと認知度の向上

我々臨床検査の分野に関わる者は、厳密な精度管理に基づいた正確かつ信頼性のある検査結果を臨床側に報告するという本来の使命を忘れてはいけません。しかし、それだけでは、臨床検査を利用する臨床医や患者（国民）に我々の存在や努力を理解してもらえません。私は、**臨床検査のガイドラインの作成に長くかかわってきました。**このガイドラインは、臨床検査を臨床医（研修医を含む）に適正に使用してもらうための道しるべであり、ますます充実させ、定期的に更新する必要があります。今後もガイドラインの作成に関わり、臨床検査の普及に努めたいと考えています。また、学会は、研究成果などを還元し、常に**国民に開かれた存在であるべき**で、その意味で、インターネットや社会的イベントを通じて積極的に臨床検査をアピールして行きたいと考えています。国民に広く臨床検査の重要性を知っていただき、積極的に利用していただくことこそ、健康の維持という国民の利益に直結すると確信します。

2) 臨床検査関連学会・団体との連携強化：チーム医療の推進

私は、平成 18 年より日本臨床検査自動化学会のチーム医療実践推進委員会の委員長を拝命し、臨床検査技師や検査医による**チーム医療の推進**に関わってきました。さらに平成 24 年からは、本学会においてチーム医療 WG の委員長を拝命し、検査関連学会や職能団体との調整をはかっております。平成 25 年 11 月に神戸で開催された第 60 回の学術集会では委員会特別企画を開催し、関連学会・団体からシンポジストを推薦いただき有意義な議論を行いました。その結果、すべての関連学会や団体はチーム医療の重要性を認識していることが判明するとともに、**本学会が中心となって積極的にチーム医療を推進すべき**という命題を頂きました。従って、理事を拝命することができた暁には、臨床検査関連企業にも積極的に声掛けし、各団体との調整をはかりながら本学会が中心的役割を果たせるように尽力するつもりです。そしてその成果として、チーム医療の加算を獲得し、臨床検査のさらなる発展に寄与したいと考えます。

以上、宜しくお願い申し上げます。